

宇佐美小学校 自己評価・学校関係者評価書に関する意見

宇佐美小中学校運営協議会

令和6年度委員 森篤

資料2

教員が今年度の教育

	大項目	中項目	学校運営協議委員からの意見
1	学校経営	学校教育目標の具現化	(別紙)【総論的な意見】のとおり。
		教育活動の工夫	
		教職員の服務	
2	教育課程	確かな学び	
		豊かな心	
		健やかな体	
3	信頼される学校づくり	安心できる学校	
		頼もしい教職員	
		開かれた学校	(別紙) のとおり。 (別紙) のとおり。

【総論的な意見】

『自己評価・学校関係者評価書』に関する意見を求められて、「学校運営協議会委員」などと大層な任務を帯びていたにも関わらず、実際の「学校運営」についてはほとんどその実体を理解できていないことがあらためてわかりました。

委員の一人としては「学校運営」に関して、もっと積極的に具体的な情報収集をすべきであったと反省することしきりです。愚輩がこの1年の間で、子どもたちの授業（同時に教員の授業でもあります）ができるだけ客観的に見ようと、その意識で見たのは、4年生の授業の90分間（2コマ）を見たたった1回きりです。

教員免許も持っていないし、教員の経験もありませんし（免許がないので当たり前ですが）、1年間子どもたちと学校生活を共にした訳でもありません。また、職員会議などの学校の会議等に出席した訳でもありませんから、学校が抱える難しい問題、課題についてその実体を知ることはできませんでした。まして、課題、問題について愚輩が学校（教員）と認識を共有するところまでには到底至っていないことは明らかです。

「学校運営協議会委員」の任務を遂行するには、地域住民の立場（愚輩のこと）で「学校運営（に関する協議）」に臨むことが重要であり、必ずしも学校（教員）と認識を共有する必要がある訳ではありませんが、認識を共有することができればそれにこしたことはありません。相互にそういう努力をした方がよいと思います。

『自己評価・学校関係者評価書』と『子どもたち及び保護者へのアンケート』を関連づけて詳細に分析すれば、「学校運営」の実状が客観的に浮かび上がるのかも知れませんが、愚輩には時間がかかるかも知れません。

以上のようなことを考え始めると、『自己評価・学校関係者評価書』の個別事項について、自己評価書を読んだだけで意見を述べるのは愚輩にはかなり難しいと思います。ご理解をお願い申し上げます。

【「学校運営協議会」及び「地域学校協働活動」に直接関わる事項に関する意見】

(1) 『自己評価・学校関係者評価書』の内、「3 信頼される学校づくり」の「保護者や地域とともに連携して、地域ともにある学校づくりを進めたか」の評価項目については、愚輩自身も直接関係する項目でありますことから、以下意見を申し上げます。

自己評価書によれば、90 %以上の教員が「進めた」と回答しているところですが、愚輩が関わる「学校授業支援隊」について言えば、令和6年度は、授業の企画から関わった教員は極わずかです。「学校授業支援隊」意外にも授業等を通じて地域と連携をはかった教員が90 %以上居るということになりますが、愚輩らにはその全貌（内容及び関わった者、関わりの程度など）はわかりません。また、「学校運営協議会委員」としてもその全貌を承知していません。

この評価項目は、学校と地域との関係性に関して、とりわけ重要な評価項目であると考えますことから、一層詳細な分析、考察が必要ではないかと考えます。

(2)『自己評価・学校関係者評価書』の内、「3 信頼される学校づくり」の「学校運営協議会やPTA活動等を通して、開かれた学校を推進することができたか」の評価項目については、「学校運営協議会」にも直接関係する評価項目ありますことから、以下意見を申し上げます。

自己評価書によれば、80 %以上の教員が開かれた学校を推進することができたと回答しているところですが、校長先生、教頭先生を除く教員と学校運営協議の接点、もっと具体的にいえば学校運営委員会委員の一人である愚輩と教員との接点は、皆無に近いのではないかと思います。

*授業支援に係る「地域学校協働活動」については、上記(1)で記載したとおり、それなりの接点があるところです。

もっとも、評価項目には、PTA活動等も含まれることから、学校運営協議会が承知していない活動を通して開かれた学校を推進することができたということかも知れません。

いずれにせよ、この評価項目は、学校と地域との関係性に関して、とりわけ重要な評価項目であると考えますことから、一層詳細な分析、考察が必要ではないかと考えます。

以上